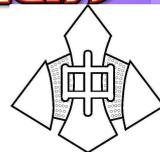


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒

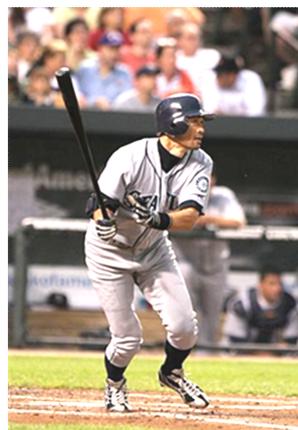


令和3年4月30日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

市中体連総合大会を1ヶ月後に控えて…

“失敗を成功につなげる”ということ ～イチローの成功習慣に学ぶ～

MLBシーズン最多安打記録保持者であり、プロ野球における通算安打世界記録保持者でもある元プロ野球選手・メジャーリーガーのイチロー氏。光あるところには必ず影があります。しかし、イチロー氏はその影の部分、すなわち一流アスリートならではの苦しみやプレッシャーすらも、自らの技量の向上や精神性の強化につなげてしまう、深い思考力と卓抜な行動習慣を持ち合わせているように思います。そんな彼から我々が学ぶべきことはたくさんあります。市中体連総合大会まであと1ヶ月となった今、臨床スポーツ心理学者としてプロスポーツ選手のメンタルカウンセラーを務める児玉光雄氏（鹿屋体育大学教授）が著した『イチローの成功習慣に学ぶ』（TABI LABO編集部 コンテンツ提供元：サンマーク出版）の一部を紹介したいと思います。



努力と同じくらい失敗の数を大事にする

野球は失敗のスポーツです。ことに打者は3割打てれば一流と言われます。機会のうち7割は失敗に終わってしまうのです。しかしイチロー氏は、失敗を挫折や萎縮のための材料ではなく、より前へ進むため、より上へ伸びていくためのポジティブな（前向きな）糧として活用しています。イチロー氏の言葉です。

「バッティングというものは失敗することが前提なので、決してモチベーションを失うことはありません」

『失敗』という言葉のを和英辞書で引くと『ミステイク』と訳されてしまいますが、私はそれを“精神的な誤訳”であると思っています。『失敗』という日本語を正しく表現する英語は『チャレンジ（挑戦）』であるべきなのです。だから、イチロー氏のように、失敗を次の局面へ進むための前提条件と考えて、めげずにくり返しチャレンジすることが次につながります。ビジネスの世界にあっても、失敗なしで大きな仕事を成し遂げることは不可能です。成功への到達比率と失敗の数は比例するものなのです。だから、頑張っても成功にたどり着けないのは、あなたの能力が欠如しているのでも、努力の量が不足しているのでもない。失敗の数が少なすぎるからだ。そう考えるべきなのです。

「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」

プロ野球の一流プレーヤー・監督として活躍した野村克也氏の言葉です。たまたま勝つことはあっても、たまたま負けることはまずない。負けるには負けるだけの理由が必ずある。そして、負けた理由をよく考えれば、そこから学べることも多い、ということです。

水泳のオリンピック金メダリストの北島康介氏もこう言っています。



「負けを知ったとき、初めて勝つことができる」

勝負に負けたとしても、「経験」が残ります。負けた理由を明確にするとともに、イチロー氏や野村氏、北島氏のように自分の失敗や挫折に正面から向き合い、失敗や敗北をチャレンジ（挑戦）ととらえ、それらを受け止めていく経験こそ、貴重な学びとなり、次のステージでの成功や勝利につながっていくものと考えます。

この考え方はスポーツだけではなく、我々が何かを成し遂げようとするときに生きていくものです。運動部の生徒のみならず、全ての生徒にあてはまることです。

努力して結果が出れば自信になります。でも努力して結果が出なくても、

市総合大会に向けて、今、大切にすべきこと

運動部の生徒にとって、市中体連総合大会が1ヶ月後に迫ってきました。現在、総合大会の前哨戦として様々な大会が開催されています。その中で、今、大切にすべきことは次のとおりです。

- 1 各種大会や練習試合等を通して、個人としての改善点、部全体としての改善点を明確にし、残された1ヶ月間をその改善のための練習として強化すること（ただ何となくではなく、日々の練習に課題意識をもって取り組むということ）
- 2 万全の状態で大番に臨むために、体調管理とケガの防止に細心の注意を払うこと



特に運動部の3年生にとっては、部活動の集大成の場となります。もちろん勝敗は気になるところですが、事故やけが、病気等に十分注意するなど、万全の状態で大番に臨むとともに、いかに自分自身が納得することのできるプレーができるかどうかです。運動部の生徒達の最後まであきらめない健闘を祈ります。

市中体連陸上大会に向けて…特設陸上部 始動!



昨年度は中止となった市中体連陸上大会ですが、今年度は、5月12日(水)・13日(木)の2日間にわたって開成山陸上競技場で実施されます。その市陸上大会に向けた特設陸上部の活動が本格的に始まりました。男子19名、女子15名、計34名の生徒達が朝と放課後、練習に取り組んでいます。自分が所属する部活動との両立は大変だと思いますが、短い練習時間の中でも集中して練習に励み、自己ベスト記録の更新にチャレンジしてほしい



と思います。陸上競技はリレー以外は基本的に個人競技ですが、練習の時にはお互いに声をかけあう、本番では「全員で戦う!」という意識で応援体制をしっかりとつくるなど、特設陸上部としての一体感を大切にしてほしいと思います。



《 特設陸上部のメンバー 》

- 1年 大越晴琉、津守隆成、氏家悠希、佐藤潤実、小室碧、鈴木いろは、工藤楓奈、佐藤悠希
- 2年 本田有摩、石川琉也、沼田拓実、児島潤、前野優稀斗、渡辺宇宙、中野蓮、根本大輝
橋本侑楽、大塚奏、荒川心結、大原寧々
- 3年 菅野優、伊藤吉太郎、宗像颯翔、阿部康生、近内快成、佐藤隆二、蓮田翔空
上野彩美、柄澤恵恋、高橋花菜、伊東さくら、夏井明日菜、錦爽加、古川明花



保護者の皆様へ

新型コロナウイルス感染症にかかわる事業について

今年度、郡山市教育委員会が実施している新型コロナウイルス感染症にかかわる事業は次のとおりです。

■ トイレ清掃業務委託事業

各学校週2回のトイレ清掃を業者(福島県中央メンテナンス協同組合)に委託しています。7月20日まで(1学期中)となっています。

■ 中学校給食費補助

すでにお知らせしましたとおり、第1学期の給食費(給食費の2分の1相当額)を市が補助します。平均給食費(365円)×給食予定日数(72日)≒13,000円

■ 感染症防止のための消毒液の購入

手指消毒液を各学級2か月に1本、次亜塩素酸ナトリウムを各学校2か月に1本購入できる金額を補助。

■ スクール・サポート・スタッフ(SSS)配置(新型コロナウイルス感染防止対策)

昨年度2学期から配置されたSSSですが、本校では今年度はまだ配置されていません。5月中には新しい方が配置される予定です。業務は校内の消毒業務を中心に、学習プリント・配付印刷等の印刷・仕分け、教員の業務の補助などを行います。これは県の事業で、期間は令和4年2月28日(月)までとなります。

